郷土史研究の動向

―平成元年―

福井県立図書館郷土資料室

一、県史・市町村史・地区誌

県史では、『資料編八　中・近世六』と『資料編一四〝建築・絵画・彫刻〟等』が出版された。資料編八は敦賀市、三方郡に伝来する中・近世の史料約一、四〇〇点を精選し収録したもので、漁業や新田開発の貴重な文書が多い。資料編一四は本県に所在する各種文化財のうち歴史上または、芸術、鑑賞上価値の高い文化財五二四点を時代別・地域別に収録している。『福井県史研究六』も刊行された。

市史では、『福井市史資料編二　古代・中世』と『福井市史資料編別巻〝絵図・地図〟』が上

梓された。資料編二は古代から中世にかかわる文書、記録、日記、木簡などの文献資料一、四四五点を収録。資料編別巻は福井藩関係を中心に奈良時代から戦後までの貴重な絵図、地図を九九点収めている。また、福井市では市制百周年を記念して『たびだちふくい』を刊行した。写真をふんだんに用い明治、大正、昭和の市の歩みや様子を紹介している。敦賀市では市史編纂事業の締めくくりとして、『敦賀市史料目録一―三』と『敦賀の歴史』を出版した。前者は総数三八、〇〇〇点余りを収録した全三巻の貴重な史料の目録である。後者は古代から現代までをまとめ、大陸とのつながりや北前船の寄港など港町敦賀の移り変わりが詳しく記載されている。

町村史では、『三国町百年史』・『丸岡町史』・『大飯町誌』が公刊された。三国町百年史は、政治、経済、文化を含めた歴史の変遷を八章構成で克明に記述している。丸岡町史は、旧版（昭和四十二年）を増補改訂、古代、中世、現代の足どりをまとめている。大飯町誌も昭和四十三年に出版された「郷土誌大飯」についで新しい二〇年間の空間を埋めた歴史を追補している。また、丸岡町では『百年のあゆみ』を刊行、明治二十二年町村制実施以来の変遷を町制百年史としてまとめている。

地区誌では、勝山市猪野区が『泰澄大師御母のふるさと・勝山市猪野』を出版した。本書は江戸時代の平泉寺白山神社一帯の古地図など貴重な史料を写真で紹介しているほか猪野の生活、方言などを収録している。その他では、『二十周年記念誌』（敦賀市平和町）・『清水グリーンハイツ第四町内会十五年史』（丹生郡清水町）が刊行された。

二、原始・古代

考古学関係では、『敦賀市埋蔵文化財調査概報一　松原遺跡』・『武生市埋蔵文化財調査報告書七　王子保窯跡群二』・『武生市埋蔵文化財調査報告書八　武生市埋蔵文化財詳細分布報告書一』・『金津町埋蔵文化財調査報告書清王一・二号古墳発掘調査報告書』・『清水町埋蔵文化財調査報告二　杉谷古墳群』などが上梓された。丸岡町において「継体大王の謎に挑む」をテーマに白崎昭一郎氏ら五名によるシンポジウムを開き、その概要を『第一回越まほろば物語　越の国シンポジウム』にまとめている。

三、中・近世

中世では、『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡二〇昭和六三年度発掘調査整備事業概報』（県朝倉氏遺跡資料館）・『後瀬山城―若狭武田氏居城の調査―』（小浜市教委）・『志比線刻磨崖仏の報告書』（永平寺町教委）などが刊行された。その他では、集英社版『日本の庭園美』全十巻の九巻目、「一乗谷朝倉氏遺跡―甦る乱世の夢―」が発行された。

論文では、『若越郷土研究一九四―一九九』に河村昭一「将軍近習小笠原蔵人と若狭守護代小笠原長房」（一九四）・「南北朝期の若狭国人三方氏について」（一九九）・小泉義博「戦国期若狭の延公事法」（一九八）が収載されている。『福井県地域史研究一〇』には松原信之「越前国池田庄と池田氏」がある。県内の刊行ではないが『日本建築学会計画系論文報告書四〇六』に吉岡泰英「福井藩大工の研究―御大工頭を中心にして―」と『地方史研究二一七』に寺下一義「七郎小法師と朝倉義景―〝西福寺文書〟年欠六月九日付紀美・珙良連署状をめぐって―」があった。

近世では、『笠原白翁筆　戦兢録』（福井市立郷土歴史博物館）がある。我が国牛痘の草創期を代表する種痘医笠原白翁の自筆の日記帳である。さらに、『酒井家編年史料総覧』（小浜市教委）・『近松門左衛門の研究』（鯖江市教委）がある。前者は小浜市立図書館蔵酒井家文庫中にある「酒井家編年史料の稿本」の細文化をまとめたものである。

論文では、『福井県史研究六』に松原信之「福井城下の町方支配と貢租・土地制度の諸問題について」・小泉義博「九頭龍川舟橋について」が収録されている。『福井工業大学研究紀要一九』に吉田純一「三田村家蔵〝天主図〟について」・『福井考古学会会誌七』に久保智康「近世中・後期越前における赤瓦の生産」・『福井県地域史研究一〇』には本川幹男「福井藩初期の民政組織について」・藤野立恵「丸岡藩の年貢取立ての変遷」・『日本海地域史研究九』に舟沢茂樹「越前における幕領と福井藩預所」が収められている。

四、近現代

『敦賀市議会史三』と『敦賀関係新聞記事目録』（敦賀市史編纂委員会）が刊行された。前者は昭和五十二年から六十二年までの同議会の動きをまとめたもので、後者は明治十五年から昭和三十年までの敦賀関係新聞記事の見出しを約四〇、〇〇〇件収録した貴重な資料である。また、『日本近代と真宗地帯の研究―福井県下の動向を中心に―』（三上一夫　思文閣）の論著もある。

論文では、『福井工業大学研究紀要一九』に三上一夫「近代機業発展と真宗地帯―越前の動向を中心に―」・『福井県地域史研究一〇』には舟沢茂樹「福井藩における陪臣について」が収録されている。

分野史の刊行も相変わらず活発である。『福井県医師会史三　資料編』が上梓された。昭和元年から三十年代初めまでの記録で、福井震災復旧関係、医薬分業に関する連合指令部の意見などがもりこまれている。その他『福井県更生保護四十年史』（福井県保護司連盟）・『福井県合唱連盟三十五年史』・『六十年のあゆみ』（福井県柔道整復師会）・福井スキー連盟六十周年記念誌の『越山シュプール』・『味心　福井食品衛生協会四十年のあゆみ』などや『今立町体育協会史』も出版された。

学校史では、『鯖江高校七十五年史』が刊行された。本書は前身の今立農学校（大正四年開校）、鯖江高等女学校から現在の鯖江高校に至るまでの歩みをまとめている。『丹南高校一〇年史』は教育実践の歩み、各種部活動の実蹟を細かく紹介している。また、『県立福井東養護学校史』も公刊された。小学校では『順化小学校百二十年史』があり、私立では『金井学園四十年史』が出版された。その他では、『福井県教育委員会四十年史』・『福井県教育研究所四十年史』・『福井県小学校長会四十年史』・『十年のあゆみ』（福井県特殊教育諸校長会）などが上梓された。なお『四十年の歩み』（口名田小学校ＰＴＡ）・『三十年史』（福井県英語研究会）も発刊した。

五、その他の文献

『わかさ小浜の文化財―図録』（小浜市教委）・『安居の方言』（福井市安居公民館）・『敦賀とおくのほそ道』（敦賀市民憲章推進会議）・『越前陶芸村二』（越前陶芸村刊行委員会）などがある。県外の出版では『福井県地名大辞典』（角川書店）があり、現在使われて

いない地名も含め、一四、〇〇〇余りを収載している。自費出版では、『織田信長と越前一向一揆』（辻川達雄）・『福井県方言集』（松本善雄）がある。

論文では、『若越郷土研究一九五・一九七』に山下英一「今立吐酔とグリフィス」（一九五）・杉本伊佐美「鯖江市河和田地区の四季行事」（一九七）・『奥越史料一八』には高橋一男「大野族の源流を尋ねて」・岩崎正「町・在郷の地蔵菩薩」・坂田玉子「地名は歴史を語る」・河原哲郎「奥越前と奥美濃は一つ」が収録されている。『福井の文化一五』は漆を特集している。荒川浩和「漆と風土」・杉本壽「若越越前国の木地村落」・木村甚松「河和田塗の技法」・森川昌和「縄文漆の謎」・加福清太郎「若狭漆の工芸」などがあった。

六、歴史研究施設の動向

県下の関係施設が開催した特別展のみを紹介したい。県立博物館では春季特別展「描かれた越前若狭―江戸時代の絵図―」展、秋季特別展は「石をめぐる歴史と文化―笏谷石とその周辺―」展を開催。県立若狭歴史民俗資料館では特別展「若狭の四季―年中行事と祭り」を催し、市立では、福井市立郷土歴史博物館が特別展「史料が語る先人のあゆみ―近世諸家の歴史をたずねて」・小浜市立郷土歴史資料館は特別展「装（よそおい）女性を飾った装身具たち」展・大野市歴史民俗資料館では特別展「能面　大野出目家とその周辺」展を開催。町立の資料館では、三国町の特別展「三国町の社寺宝物」展と「三国町近代百年の歩み」展、三方町では特別展「よみがえる郷土の絵馬と発句額」展を開催した。

七、郷土雑誌

郷土研究にかかわる誌名と号数のみを参考までに紹介してみたい。

〇朝倉氏遺跡資料館紀要一九八八　〇朝倉氏遺跡資料館・資料館だより三・四　〇奥越史料一八（大野市教委）〇研究紀要一九（福井工大）〇若越六七・六八　〇若越郷土研究一九四―一九九　〇若越の城館二　〇武生市史編さんだより二〇・二一　〇敦賀市歴史民俗資料館紀要四　〇福井県史研究六　〇福井県地域史研究一〇　〇福井県立博物館紀要三　〇福井考古学会会誌七　〇福井考古学会々報二五―二八　〇福井市立郷土歴史博物館会報一四　〇福井の文化一四・一五　〇ふくい無形民俗文化財一一